

伊勢・三河湾貧酸素情報 (H30-7号)

平成30年7月27日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

平成30年7月24、25日に伊勢湾、7月24日に三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は下記のとおりです。

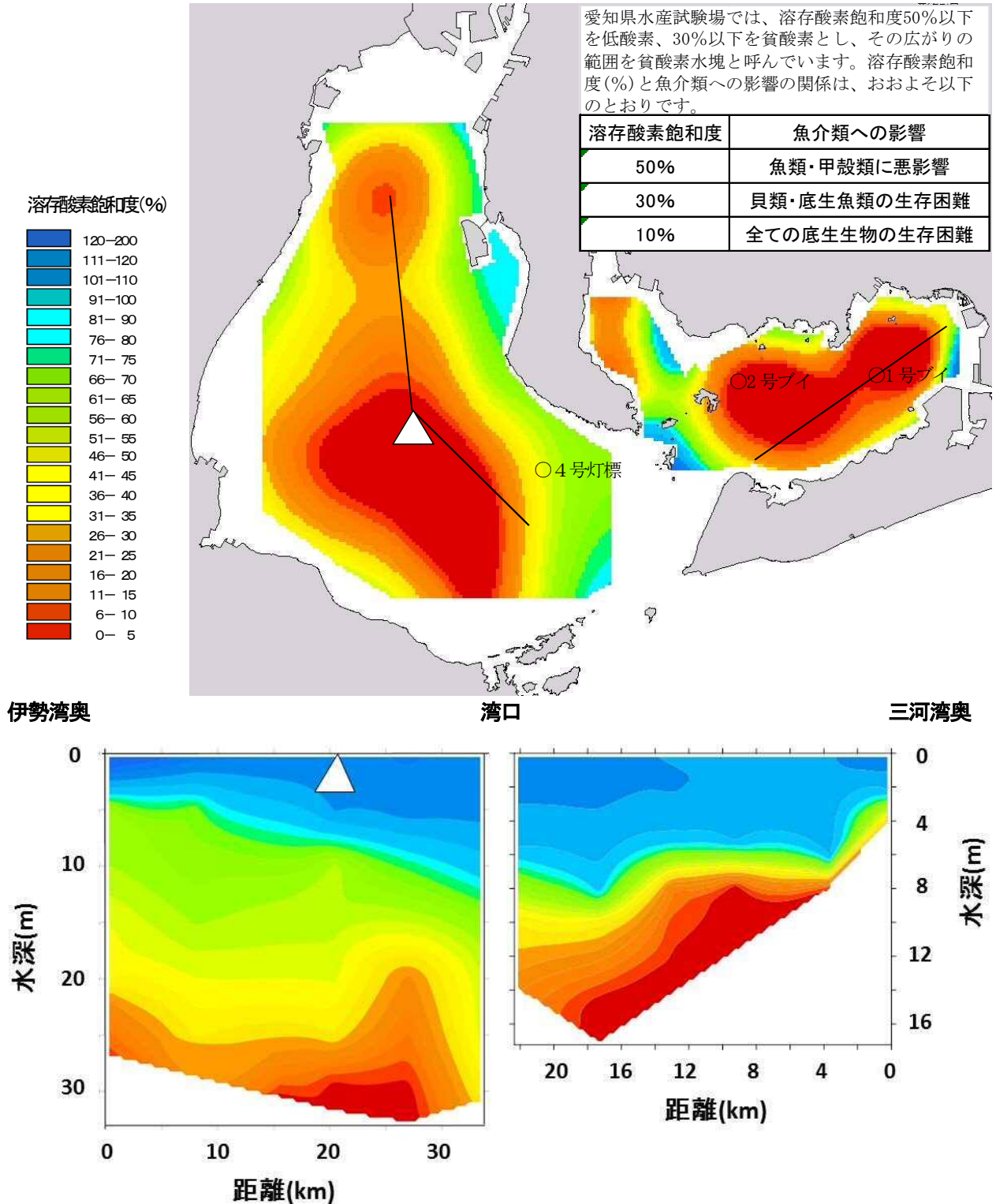


図1 伊勢湾(7月24、25日)・三河湾(7月24日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)(愛知県「海幸丸」、「へいわ」調査)

伊勢湾

7月24、25日の調査結果を図1に示しました。湾南部で貧酸素水塊が確認されました。

国交省中部地方整備局が所管している伊勢湾の水質モニタリングシステムの第4号灯標（内海沖）では、水深10mおよび24mの溶存酸素飽和度は徐々に低下し、水深24mでは40%近くになっています（図2）。

今後は、台風第12号の強風の影響により海水の上下混合が起きて、貧酸素水塊を一旦縮小させると予測されます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	24.7~30.8	20.7~28.7
底層	17.6~22.3	32.5~33.8

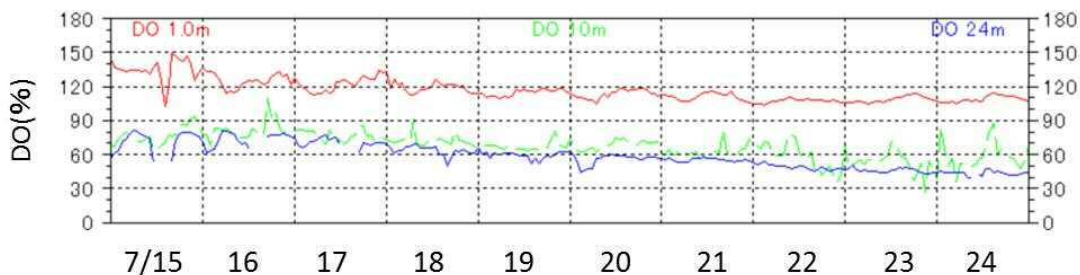


図2 伊勢湾モニタリングシステムの第4号灯標の溶存酸素飽和度（DO）の経時変化（中部地方整備局HPより）

三河湾

7月24日の調査結果を図1に示しました。前回調査（7月10日）に比べ、渥美湾全体に貧酸素水塊が拡大していました。また、知多湾奥部でも貧酸素水塊が拡大していました。

三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ（蒲郡沖）のデータをみると、底層では溶存酸素飽和度が10%以下と低く推移している様子が観測されています。また、2号ブイ（吉良沖）のデータをみると、7月19日から底層で徐々に溶存酸素飽和度が低下し、貧酸素の層が厚くなっている様子が観測されています（図3）。

今後は、台風第12号の強風の影響により苦潮が発生する可能性があります。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	27.6~31.5	17.7~29.4
底層	22.1~30.0	27.0~32.9

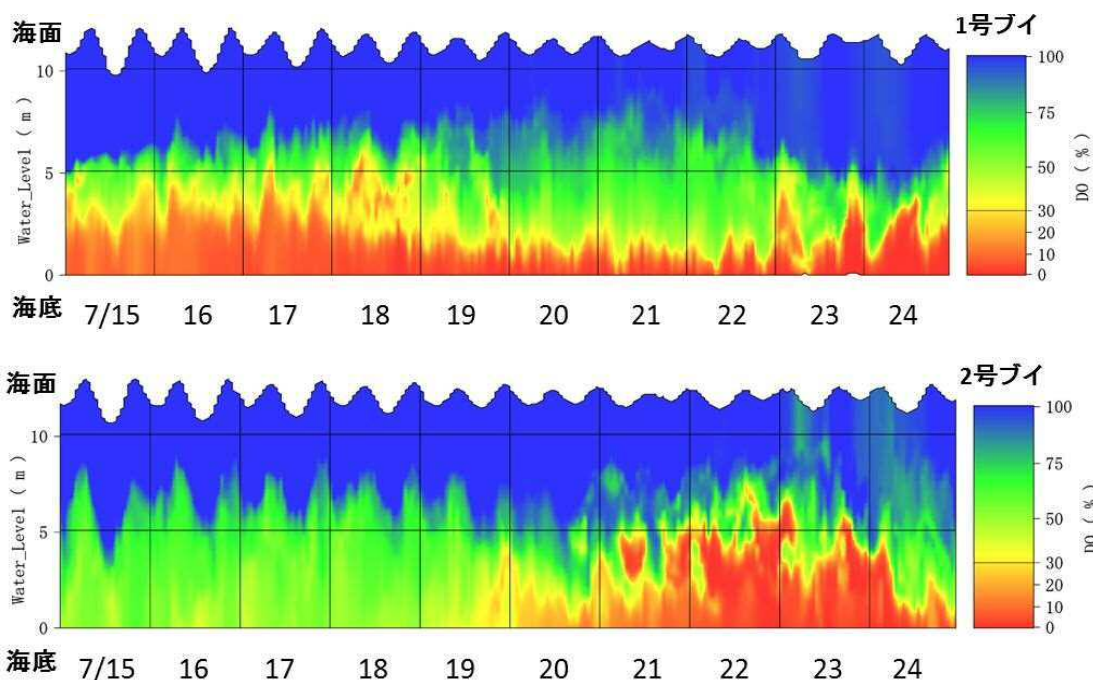


図3 溶存酸素飽和度（DO）の経時変化（上段：三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ、下段：2号ブイ）

参 考

前回調査時の底層の溶存酸素状況

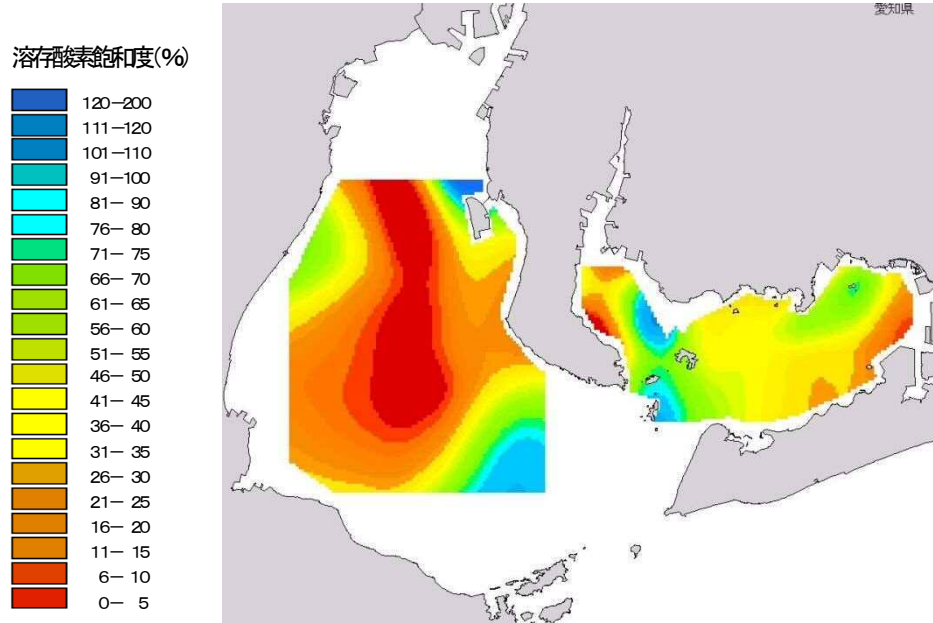


図4 平成30年7月2、3日 (伊勢湾)、7月10日 (三河湾)